

# 平成 2 3 年度児童生徒体力・運動能力調査の結果について

スポーツ課

## 1 調査の目的

県下児童生徒の体力及び生活の実態を把握し、今後の体育指導の改善及び基礎体力養成の資料とする。  
(長野県では昭和 4 2 年から実施)

## 2 調査対象校および人数

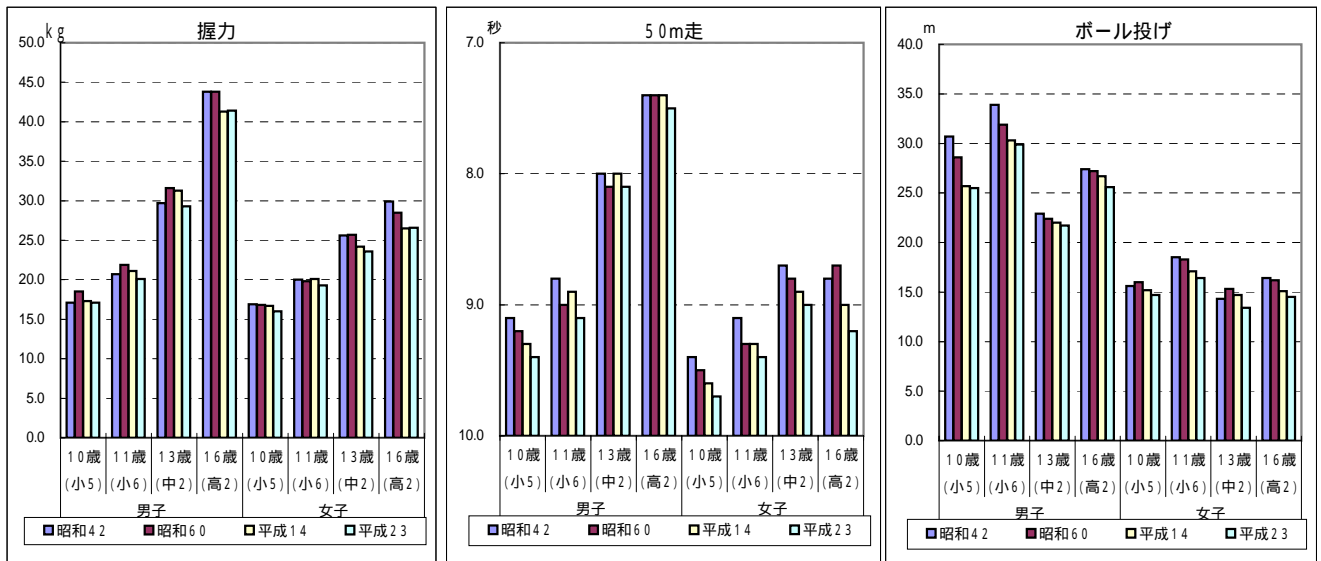
小学校	60校	16,856名
中学校	40校	15,035名
高等学校	12校	6,254名
		38,145名

調査期間 平成23年 5月～10月

## 3 体力・運動能力の推移

### (1) 昭和 4 2 年度、昭和 6 0 年度、平成 1 4 年度、平成 2 3 年度の比較

(比較可能な握力、50m走、ボール投げの3種目のみ)

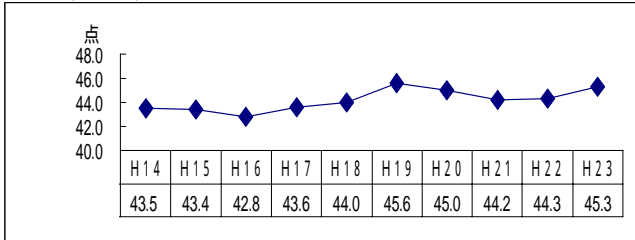


握力の 1 6 歳男子と 1 6 歳女子以外は全て平成 2 3 年度が最低を記録している。

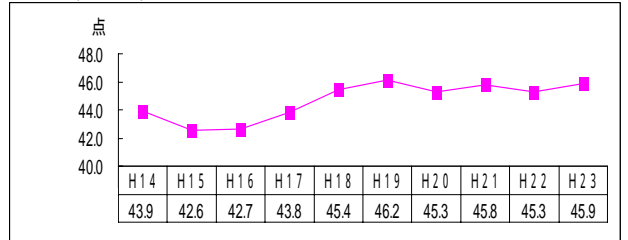
### (2) 体力合計点の 1 0 年間の推移 (握力、50m走、ボール投げに加え、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびを点数化して合計)

全体 (小学校 1 年生から高等学校 3 年生まで) の体力合計点平均

全体 (男子)

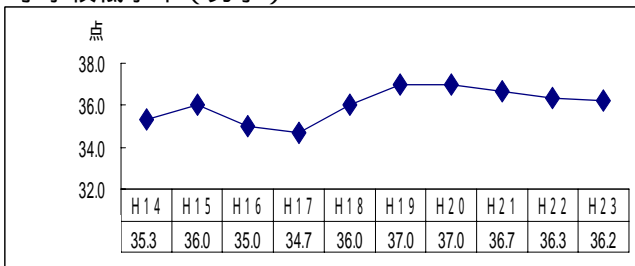


全体 (女子)

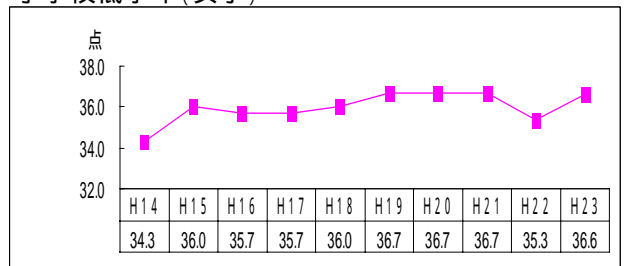


校種別体力合計点平均

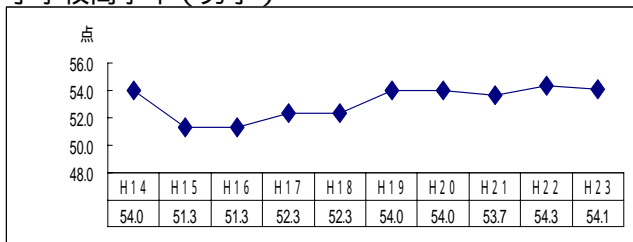
小学校低学年 (男子)



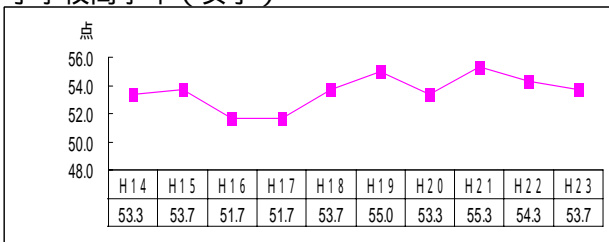
小学校低学年 (女子)



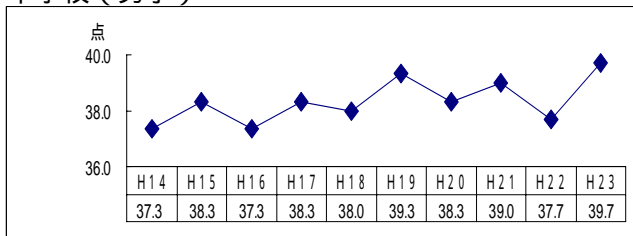
小学校高学年（男子）



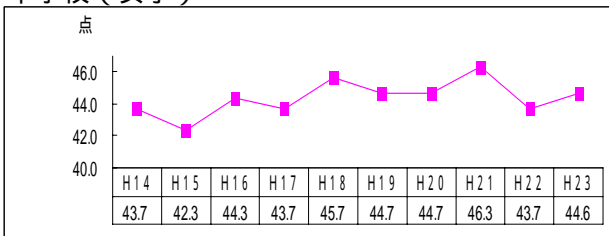
小学校高学年（女子）



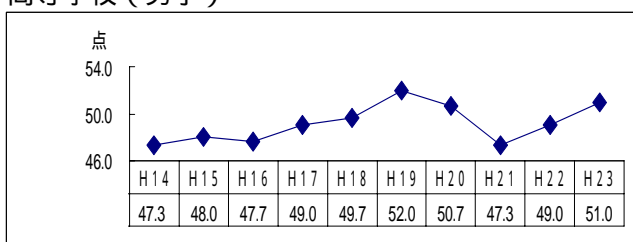
中学校（男子）



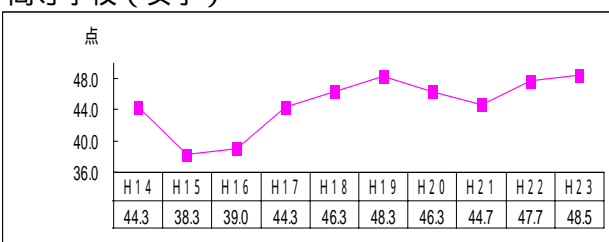
中学校（女子）



高等学校（男子）



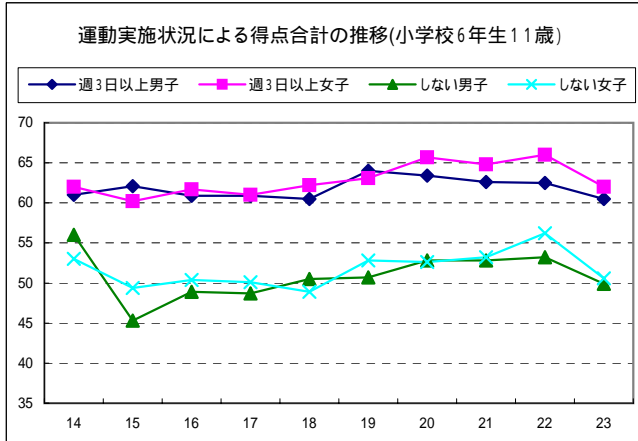
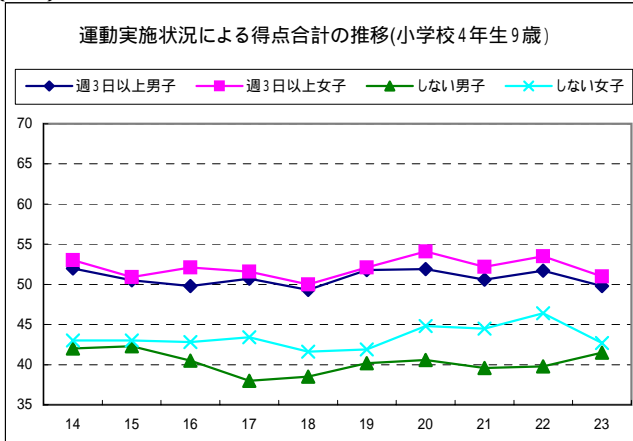
高等学校（女子）



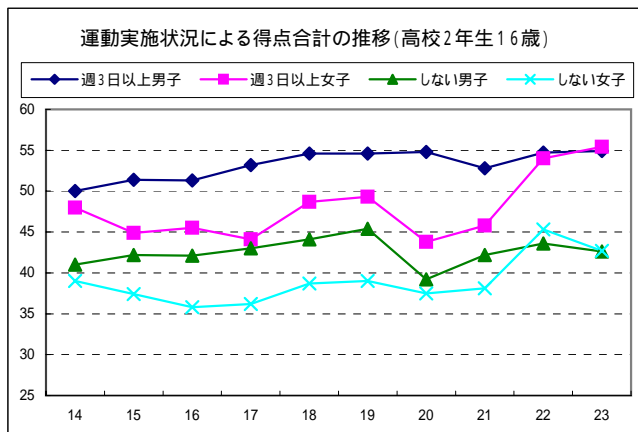
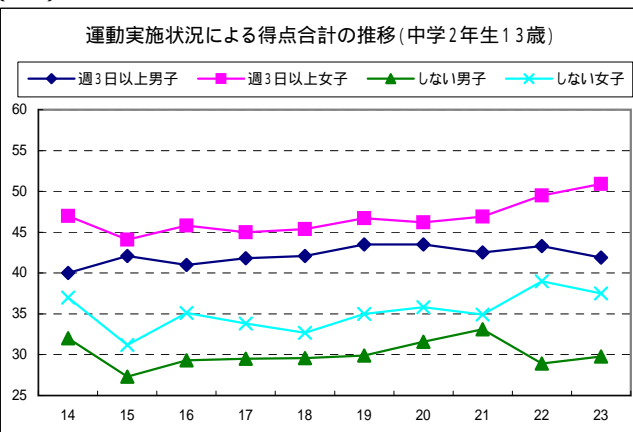
全体では若干の上向き傾向にある。平成23年度において前年度と比較すると小学校低学年（男子）と小学校高学年（男子と女子）以外は上昇している。

4 運動実施状況による体力合計点の推移（平成14年度～23年度）

(1) 小学生



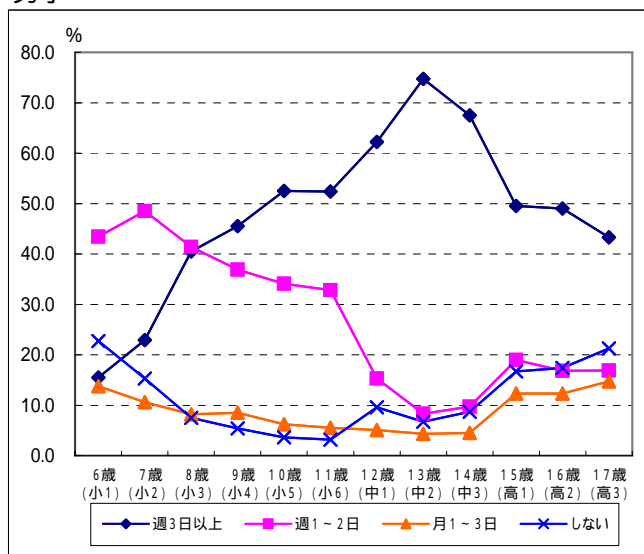
(2) 中学生・高校生



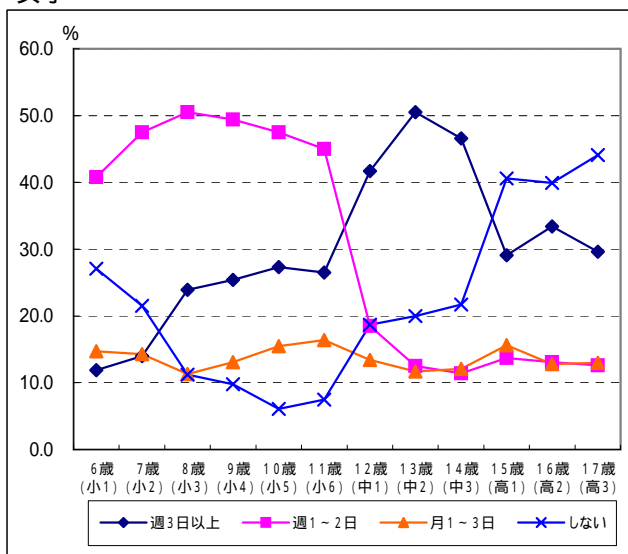
「週3日以上」運動すると回答した児童・生徒は、「しない」と回答した児童より体力合計点が高くなる。

## 5 学年進行に伴う運動の実施状況の変化（平成23年度）

### 男子



### 女子



「週3日以上」運動をすると回答した児童・生徒の割合は、小学校高学年でいったん横ばいとなるが、中学に入り増加傾向を示し、中学2年生をピークに減少傾向に転ずる。

「しない」と回答した児童・生徒の割合は、小学校5～6年生から学年が進むごとに増加し、特に女子が著しい増加を見せ、高校生では4割以上に達する。

### （参考）

児童生徒の体力の低下の要因としては、以下のことにより運動する機会が減少していることが考えられる。

- 学校外の学習活動や室内遊び時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少
- ゲーム機やテレビなどの室内遊びの増加
- 習い事などによる子どもの多忙
- 空き地や生活道路といった遊び場の減少、少子化による遊び相手の減少
- 睡眠時間や生活習慣、食生活の乱れ
- 交通・電化製品の発達による利便性の向上